

丸子宿 まちなみマップ

＜ 丸子に残る伝統行事 ＞

- 庚申(こうしん)さん
...庚申の日に徹夜して、眠らずに身を慎めば長生きできるという信仰。60日に一度。
- 禊(みそぎ)の払い
...一年の罪厄を「形代」(かたしろ)と呼ばれる札で払って、その札を川に流す。夏越大祓6月30日。

＜ お話からひも解く昭和の景色 ＞

- 年の暮れ...12月29日家族総出で大掃除。上げた畳を裏にして、宿通りに面して干した。30日には家族でもちつき、子どもも手伝った。大変だけど美味しい餅が楽しみだった。
- 1958(昭33)現国道1号線開通まで...狭い宿通りが国道だったので、大きなトラックやバスも通った。軒先や屋根への接触事故も度々起こった。
- 地域の女性コミュニティの場である婦人会、盆踊りなど様々な交流が盛んにおこなわれた。
- 昭和後期まで4~5軒の駄菓子屋さん宿通りのあちこちにあった。小学生が文房具や、ビックリマンチョコなどを買った。



⑧古民家「松川屋」



⑨古民家



「つた屋」～旅籠～ 現 松福園さん
現当主: 幸平さんの祖父、松井福太郎さん(1868(明治元年)生まれ)が 明治16年に、東京へ出て勝海舟門下生となった。その後、帰郷し「勝福商店」を興す。勝海舟の「勝」の字をもらい、みかん、お茶、酒などの総合商社。ウラジオストクにも輸出していた。

- ①勝福商店時代のパッケージデザイン
- ②稲荷神社千年祭(1937・昭12)の写真
稲荷神社は現在の場所に移る以前は、丸子城東端の豊坂山に鎮座。地震・災害など厄除けの神、旧長田村の氏神さまとしても崇敬された。



②



③

「石川屋」～旅籠・大工～

- ・江戸時代には旅籠の傍ら、男性は宮大工を兼業。
- ・その後1994(平6)までは「よろづや」を営む。
- ・塩、タバコ、菓子、下駄、重油までも販売していた。

③旧長田村消防隊はっぴ

*現在の奥様の実家は市内の染め物屋さん。だからこそ、藍染のはっぴに愛着を持って大事にされてきたのか...

④民間療法などが記されている手帳

- ・セキリ、ヒエなどの病名、薬草の名など。

「えびや」～旅籠～

1941(昭16)建て替え

- ・以前の古いお宅には奥まで抜ける「通し土間」、腰掛けて履物を脱ぐ旅人のために「上がり框(かまち)」があった。
- ・戦後食糧難の時代には椎の実やイタドリをおやつに。裏の丸子川ではうなぎやズガニを取った。

「かきや」～代筆業～

- ・文字の書けない人に代わり、手紙などを書いた。
- ・旅人のために「上がりかまち」があった。
- ・当時あった農機具は1950(昭25)頃に小学校に寄付する。

「塚屋」～旅籠～

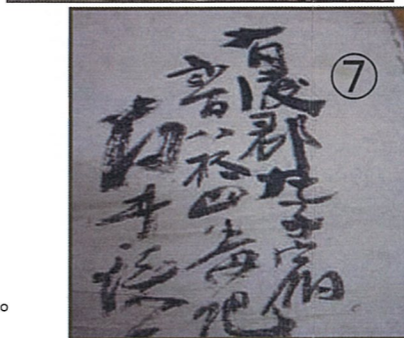
- ・「白木屋」という材木業も営む。(宇津ノ谷から木材を調達)
- ・副業として養蚕も。一般的な旅籠では杉皮の屋根だが、屋根瓦を使用していたことから、少し上級の旅籠か?
- ・片桐且元の家来が泊まったといわれている。
- ・且元公が使った火を灯す器があるらしい。

⑤民家「旧成島家」

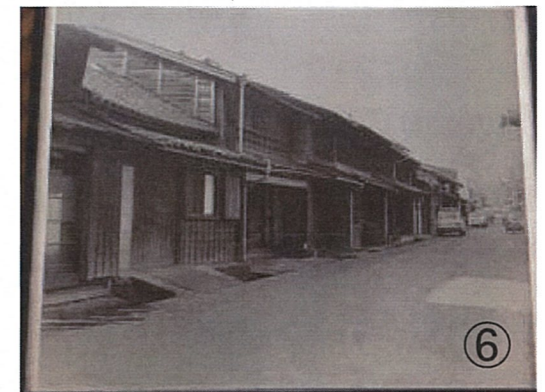
- ・昔のたたずまいを残す造りの壁など
- ⑥の写真から100mほど西に位置する。

「柏葉屋」

- ・女郎屋を営んでいたらしい...丸子にはないとされているが、実際のところは定かではないようです。



⑦



⑥「藤屋」～旅籠～
1950(昭25)頃の町並み
(西方を望む)

「三州屋」～瓦屋・旅籠・質屋・酒屋～ 現白井酒店さん
現当主(4代目): 白井照之さんの曾祖父清治郎さんが白井酒店創業。

- ・もともとは三河地方にある三州瓦の職人。
- ・「三州屋」初代は清兵衛さん。
- ・駿府築城や駿府の町を作るにあたり招集されたのでは。
- ・その後旅籠屋を営んだ。
- ・現当主: 照之さんの父親までは「清」の字を世襲していた。
- ⑦長田村(1891~1934)以前に使われていた「有度群丸子宿」という住所の質屋貸付台帳